

医療機関の病床機能の理解、 この先の医療政策の展開について

独立行政法人 国立病院機構 函館病院
相談支援室 医療ソーシャルワーカー 廣瀬 量平

《病床機能の理解と役割分担》

- ・病院の機能は見えづらく、分かりづらい。
- ・基本は一般急性期の病院への入院が入口。
- ・急性期の病棟では長く入院できないルールとなっている。
- ・急性期の状態が落ち着いたら、亜急性期、回復期、慢性期と役割分担していく必要がある。
- ・看護配置別に見た一般病棟の機能、亜急性期の療養を担う地域包括ケア病棟、急性期後の回復をサポートする回復期病棟、長期療養を担う療養病棟を理解していれば見えやすくなるかもしれない。

《この先の医療政策の展開について》

- 1) 医師等の確保・偏在是正
- 2) 病院、病床の機能の明確化・強化
- 3) 在宅医療・連携の推進
- 4) 医療従事者間の役割分担とチーム医療の推進

①病床機能分化の方向性

『病院完結型医療』から地域全体で治し支える

『地域完結型医療』へ転換の一環



「機能分化」だけでは患者の「稼動」が多くなり、大きな負担になるため、医療機関同士の連携、医療と介護の連携、多職種連携が欠かせない。

②病床機能と入退院支援

- ・病院・病床の機能分化を進めるためには、「退院支援の充実」が鍵の1つである。
- ・退院支援加算を行っている医療機関とは、退院支援部門を窓口として連携を行うことが有効ではないか。
- ・高齢者世帯の増加に伴い、自分が介護認定を受けているのか、サービスを利用しているのかどうか、担当ケアマネが誰なのか分からない方も増えてきている。
- ・病院の退院支援部門では、現状の病状を踏まえ患者の今後の生活について、どのように考えているのか共有することが大切ではないか。
- ・入院患者だけでなく、外来通院患者についても相談が可能である。

《退院支援における医療ソーシャルワーカーと 介護支援専門員の連携に関する考察》

①多職種チームアプローチにおける協働の阻害要因

多職種チームによる利用者の生活課題の解決は、それぞれに分担された役割を果たせればうまくいくというものではない。チームワークを促進していくための原則として、第一にチームの共通目標を設定することが必要。



役割分担を明確にすることよりも、共通の目標に対して専門職同士で足りない部分や考え方が対立する部分について、補い合ったり意見交換する機会の方が重要である。

②互いの専門性に関する知識の欠如

ケアマネは、医療の供給体制や医療知識のほか、医療ソーシャルワーカーが基盤とするソーシャルワークの考え方について理解しきれていない部分が多い。一方で医療ソーシャルワーカーは、地域における在宅生活の実態や、ケアマネという職種および所属する機関など、地域への理解が十分ではないことが多い。



医療ソーシャルワーカーは多職種協働において、利用者と専門職あるいは専門職同士で起きた問題を、利用者の尊厳が尊重されるよう調整する視点と技術をもつ職種である。また、ケアマネが医療ソーシャルワーカーに対して、連携を担う専門職として「聴く姿勢」を持ってほしいと期待を寄せている点からも多職種チームワークにおいて生じた葛藤を、調整役としてメンテナンスする役割を医療ソーシャルワーカーに求めているのではないだろうか。